



火
仙
四

八
禁

こんにはー
FCRです。

いつもの
ごとく
ナコリム
本です

ナコリムは
よいです

なー
いろいろ
やりました
(らっ)や

このお話の設定はリムが山賊から助けて知り合いになった優秀な男との話です、前のコミック本とかに出てきたのと同じです、この男は蝦夷の上の方から中国・ロシア経由で禁制の海外モラルをいろいろ仕入れてくる怪しい商人です、なので仕事柄海外の拷問器具やら性具をイロイロと持っています。

リムはこの男によく懐いており男の所にちよくちよく遊びに来ます。

ある時に男の家にあった性具や拷問器具に興味深々のリム、その表情と仕草からリムのM気を見抜いた男はリムと器具を使ったプレイをするようになり徐々にリムを調教開発するといったお話です
いろいろ

ネタや設定考えてるのですがなかなか漫画にして本にする時間がな

いので
ラガキ本
でナコ
リム描
いてま
す。

ズボズボと音を立てて巨大張型を
いとも簡単に出し入れする少女、
その尻穴は完全に開発され尽くし
ているようだ・・・

「あ！兄ちゃん見て見て
コイツも完全制覇だよ」
嬉しそうに笑う
「そいつまでとは・・・」
ココにある尻責器具は
全覇されちまったなあ
「へへん♪」
得意そうに笑うリム



「どんな尻穴に仕上がったか
確認してやろう」
奥までくわえ込まれた張型を
一気に引き抜く！
ググググツツ・ギュポン！
肛門が内部がらめくり上がり
腸汁が激しく噴出す

「いぎいぎっ！がああああっ！！
おっ！っ！あつがああああ！！」
ビクツ！ビクン！と痙攣し
張型が引き抜かれると同時に
絶頂を迎え大量に射精・・・



「完全に伸び切って美味そうな
中身が丸見えだ、この穴なら
うちで飼ってる馬の精処理でも
できそうだな。また新しい器具
をそろえてやるから楽しみに
してろよ。」

「尻穴も仕上がったことだし新しいところの開発とでもいこうか・・・」
おもむろに細めの器具を取り出す・・・さっきまで尻穴を責めていた凶悪なものとは比べると何てことないモノに見える「？」
「フッフ・・・これが何か分からないようだね・・・」
これはねりムの尿道を責める器具だよ」
「にっ尿道って・・・オシッコの穴だよね！そ、そんなところを・・・そ、そんなものが・・・入る・・・の？」
恐怖と期待にドキドキとしながらその器具を見つめる
「だから入るようにまた拡張し開発するんだよ。リムの肛門も最初は指一本でもキツキツだっただろ？でもその顔からするとやる気まんまんとこだな・・・」
「こ、これが・・・オシッコの穴に・・・ゴクリ」
そう思うと一気に凶悪なモノに見える、デコボコや反りのように生やされたヒダを熱を持った視線で見つめる
「まあイキナリこいつは無理だからまずは細目のモノで徐々に拡張だな」
そう言って一段細いのっぺりした棒を取り出す



ペニスをパンパンに勃起させ器具を入れやすいようにするために根元をベルトで縛る、準備が整うと拡張用の器具を尿道口へとあてがう。ピと。皮をかぶって分かり辛いのが拡張用の器具といっても自分の尿道口より大きいように見え、恐怖と不安でブルツツと見震いする。尿道が傷つかないように潤滑油もたっぷり塗っておいたからスナナリ入ると思うけど始めての異物挿入だから相当痛いと思うから覚悟していてね。あとココも元の体に戻れなくなるけど本当にいい？

そう優しく伝える男

「ココクリ」と上目遣いで小さくうなずくりム

「ニコ」と微笑んで一気に器具を挿入する



「……!いつ!くあッあああああああ!」

それと同時に今まで感じたことがない激痛が尿道から体の芯まで走る!

ビクン!ビクンッ!

何度も体を痙攣させ、声にならない悲鳴を上げた打ち回る、そのまま気を失う。こうなることを見越して、あまり暴れられように手足はしっかり拘束してある

気がついた後も容赦なく尿道拡張が続き、拡張用の器具も少しづつ大きくなつていく、いったん開発は始まると男はリムがどんなに泣き叫び許しを請うても止めることはない・・・そうして少し日にちが経ち尿道挿入の痛みにもなれ、それを楽しめるようになっていた。生来のマゾ氣質の賜物である尿道に挿入する器具も大分大きくなつてきた、そんなある日男が奇妙な器具を持つてきた、短い棒状のものに輪やらがイロイロ口付いており、一番大きい輪はネジで締めたり施錠したりできようになつていて、棒状のモノには細い穴も開いているようだ



「開発も大分進んだし次の段階に進もうかな、リムには暫くコイツをつけて生活してもらおう、けっこう大きめだが今のリムになら大丈夫だろう。コイツは尿道に挿入しこの輪でカリのところを絞めて抜けなくする責具だ、鍵をかけることも出来るので勝手に抜くこともできない、オシッコをする時は先端のネジを取れば中が筒状なので出来るけど細いので出すのがけっこう大変だよ」
「そう言いながらその器具をリムに取り付けて締め上げ鍵をつけたかなりの圧迫感と違和感があり、下手な動きをすると激痛がする



「おいーっ！かりしゃぶれよ口だけで許してやってるんだ！」
ジユップ！ジユップ！

町の悪ガキ達のイチモツに無心にしゃぶるリム、町や村などで悪さをするので何度も懲らしめたことがあるが何時もの調子で懲らしめようとしたが、ペニスに付けた器具のせいで思うように動けず返り討ちにあってしまった、そのまま輪姦されそうになったが嘆願し彼らのモノを口で処理する精液便所になることで輪姦は許してもらったおかげでフタナリであることや肛門や尿道拡張の秘密がバレずにすんだ。

「へへへ、あのリムが俺のモノをしゃぶってるなんて信じられねえぜ」
「本当は裸にひんむいて姦してやりたいとこだが約束だからなあ、これから俺らがチ○ポ出したら口開けて奉仕するんだぞ」

「ふ、ふあい、ジユポージユポー！
リムの口は・・・これから、皆様の便所です・・・ジユポ！好きな・・・時にジユポ！好きなだけお使い・・・下さい・・・ジユポッ！」

「おし出すぞー全部飲み！ウウー！」
ドピュードクッドクン！」

でも後に全員コテンパンにされちゃいました、約束なので口便所は続けるようですが



《表紙の続き》

「へへへ、こんな所一人盛りやがって、玉もパンパン
竿もピンピンじゃねえか」

「そんだけ出してもまだ出し足りないって感じたな、
俺たちがたつぷりと可愛がってやるよ！」

「うおおおっ！コイツは凄い名器だぜ！尻穴も
そうとう使い込まれて、完全開発済みだぜ」

「口の方も凄い！何処でどんだけ仕込まれたんだ！」

「じっくり過去の経歴でも聞かせてくれや」

第四病棟



2009年8月14日発行

web:http://www.geocities.jp/fcr_9000/

e-mail:fcr_9000@yahoo.co.jp

発行：第四病棟

発行人：FCR

印刷：どこか近くのコピ機あるところ

なんとかコピ本でち上げることができました、いつものごとく
のラクガキ本ですが・・・(っ^w^)^っ†
見ていただくありがとうございました

成人向けです、十八歳未満の購入・観覧を禁止します